

1. 閣議決定・公表までの経緯

(1) 令和6年度白書では、特集において、「生物多様性を高める林業経営と木材利用」をテーマとし、国内外で関心が高まっている生物多様性について、森林におけるこれまでの保全の取組や、生物多様性を高めるための林業経営、そこから生産される木材の利用の今後の方向性等について記述した。

トピックスでは、

- ①森林経営管理制度5年間の取組成果
 - ②「林業職種」の技能検定がスタート～「林業技能士」の誕生～
 - ③木材自給率が近年で最も高い43%まで回復
 - ④中高層建築物等における木造化の広がり
 - ⑤プラスチックを代替するバイオマス由来素材「改質リグニン」の今後の展開
 - ⑥令和6年能登半島地震と大雨による山地災害等への対応
- を紹介・解説した。

(2) 昨年9月の林政審議会で諮問し、その後、計3回の施策部会において御審議いただき、本年4月の林政審議会において、その結果を受け林政審議会会長より答申が行われた。6月3日に閣議決定の後、国会提出を行い、公表した。(別添1)

令和6年度森林・林業白書の総括

2. 閣議決定・公表後の動き

(1) 報道

日刊木材新聞、日本農業新聞等においては、特集について取り上げられており、生物多様性が森林の多面的機能を支えていることなど、その重要性が紹介されるほか、森林の生物多様性保全の施策等についても紹介された。共同通信や時事通信の配信等では、トピックスで取り上げた木材自給率の上昇等が紹介された。（別添2）

(2) 広報・普及

閣議決定本の配布、ホームページへの掲載、市販本の出版、紹介記事・SNSの投稿に加え、白書を紹介する動画による広告等を行った。

また、林野庁の担当者が説明会で、現時点で計34回（うちオンライン12回）、約2,000名に白書概要の説明を行った。昨年に引続き、平日昼間に参加が難しい方を対象に林野庁単独で平日夜及び日曜日のオンライン説明会を開催した。（別添3）

(3) 主な評価

説明会でのアンケート調査等では、生物多様性保全の取組や今後の方針について印象に残ったとの評価が多く見られた。具体的な評価については別添4のとおり。

令和 6 年度森林・林業白書の閣議決定・公表までの経緯

令和 6 年 9 月 5 日 林政審議会
(諮問)

第 1 回施策部会
・作成方針(案)の検討

11月21日 第 2 回施策部会
・令和 6 年度森林及び林業の動向
(構成(案)、主要記述事項(案))

令和 7 年 2 月 20 日 第 3 回施策部会
・令和 6 年度森林及び林業の動向(素案)
・令和 7 年度森林及び林業施策(素案)

4 月 18 日 林政審議会
・令和 6 年度森林及び林業の動向(案)
・令和 7 年度森林及び林業施策(案)
(答申)

令和 7 年 6 月 3 日 閣議決定・国会提出・公表

令和6年度森林・林業白書に関する主な報道について（1／2）

紙名	日付	記事の概要
共同通信 ※同様の記事が複数の地方紙（西日本新聞、長崎新聞、宮崎日日新聞等）に掲載	6月3日	木材自給率43%、上昇続く 林業白書、従事者の高齢化歯止め ・23年の木材自給率は43.0%と02年の18.8%を底に増加。木材の国産化が進む中で、林業従事者は若年層が就業し続けて横ばいとなっていること、また、20年の平均年齢は25年前から4歳ほど低い52.1歳であることを紹介。 ・23年は一戸建て住宅の新設着工戸数は落ち込んだものの、円安により木材輸入量が大幅に減少。製材や合板などで国産材への転換が進んだと解説。 ・人口減少で住宅需要が縮小しており、公共施設向けの木材利用を推進する。商業店舗や4階建て以上の中高層ビルへの活用も徐々に広がっていると紹介。
時事通信 iJAMP	6月3日	花粉少ない品種6割に＝スギ苗木の生産―林業白書 ・スギの花粉症対策では、スギ苗木の生産量のうち花粉の少ない品種の割合が23年度に約6割になったことを紹介。23年度のスギ苗木の生産量は2,961万本で、このうち、花粉の発生量が通常品種と比べて1%以下の少花粉品種や、20%以下の低花粉品種などは合わせて1,776万本。 ・政府は23年に決定した「花粉症対策の全体像」で、スギ苗木の生産量に占める花粉の少ない品種の割合を33年度には9割以上に引き上げることを目指していることを紹介。 ・白書では他に、23年の木材自給率が輸入木材の減少などを背景に前年比2.3ポイント上昇し43.0%となったことなども報告。
日刊木材新聞	6月4日	生物多様性確保で木材生産・森林機能維持を 林業技能士や自給率上昇傾向盛り込む ・冒頭の特集では、生物多様性を高める林業経営と木材利用に光を当てた。森林の生物多様性が損なわれると生態系サービスのレベルの低下や将来の暮らしなどにも影響すると重要性を位置付け、生物多様性保全に関する施策については、森林のモザイク状配置、針広混交林化、広葉樹林化、長伐期化などの森林整備を推進していると紹介。また、民間企業にも持続的な経営から生産される木材利用の動きが広がっていることなどにも言及。 ・トピックスでは、森林経営管理制度の5年間の成果、技能検定の職種に林業職種（林業技能士）が新設されたこと、木材自給率が上昇傾向であること、非住宅建築物での木造化などに触れていることを紹介。 ・能登半島地震と大雨による被害への対応、岩手県大船渡市などの森林火災についても取り上げたことを紹介。 ・今後の期待分野として改質リグニンも盛り込んだ。

令和6年度森林・林業白書に関する主な報道について（2／2）

紙名	日付	記事の概要
日本農業新聞	6月7日	森林・林業白書公表 生物多様性特集に ・冒頭の特集では生物多様性を初めて取り上げ、生物多様性が森林の多面的機能を支えていること、多様な生物が生きる場を守る林業経営の施策を紹介。 ・岩手県大船渡市の林野火災への対応や、導入から5年が経過した森林管理経営制度の成果等も説明。 ・木材の自給率が近年で最も高い43%まで回復したことや、住宅需要が落ち込む見通しを踏まえ、中高層建築物等における木材利用を進めることが重要とされていることを紹介。
	6月14日	論説 生物多様性を重視せよ ・林業政策を考える上で重視したいのが、森林が育む生物多様性だとして、白書が生物多様性を高める林業経営と木材利用を特集したことを紹介。日本は森林大国であり、森林は生物資源の宝庫であることから、持続的な森林に向けた再造林や間伐などが欠かせないと解説。 ・木材自給率が18.8%から43%に向上しており、国産材利用をさらに推進することが、国内の林業振興となり、生物多様性の維持にもつながると紹介。 ・一方で、森林火災の頻発が懸念されており、それが土砂災害のリスクも高めること、土砂災害が発生することで、森林再生が妨げられ生物多様性も損なわれることから、植林を促し、森林を再生する必要があると指摘。
林経新聞	6月10日	「生物多様性と木材利用」掲げ 林業白書 林業経営と木材の今後、啓示 ・今年の特集は「生物多様性を高める林業経営と木材利用」をテーマに、初めて生物多様性の問題を取り上げており、森林が高い生物多様性を維持していること、生物多様性を高めるための林業経営と生産される木材の利用の今後について詳しく説明していると紹介。 ・トピックスでは「林業職種」の技能検定がスタートして「林業技能士」が誕生していることや、中高層建築物の木造化の広がり、プラスチックを代替するバイオマス由来素材「改質リグニン」の利用など最近の話題を紹介。
林政ニュース	6月11日	最新版白書が初めて「生物多様性」を特集 「指針」に沿った経営で収益機会確保へ ・白書としては、初めて「生物多様性」を特集テーマとして、課題や対応策を取り上げたことを紹介。 ・生物多様性の確保については、国際的な目標が掲げられていることに触れた上で、大手企業ではTNFD提言等を踏まえた取組が進められていること、「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」に沿った森林施業を促していること、「指針」に即した森林施業を行うことで、新たな収益機会を得られることなどを紹介。 ・生物多様性を高める林業経営と、持続可能な木材利用の実践を通じて、我が国の森林を将来にわたり受け継いでいくことが必要と結論付けていると紹介。

令和6年度森林・林業白書の広報・普及について（1／3）

1. 白書本文の普及

（1）閣議決定本の配布

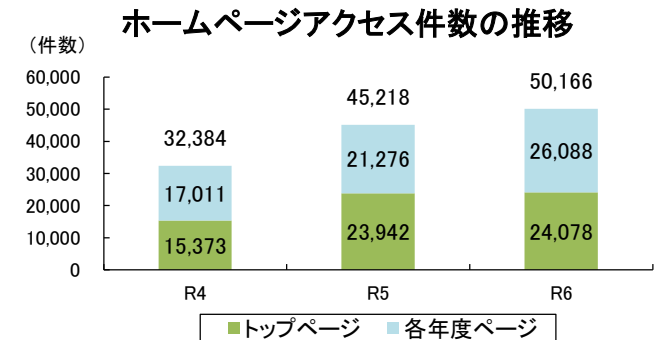
閣議決定本を2,550部印刷して、国会に提出（約100部）するとともに、関係府省（約120部）、都道府県（235部）、都道府県立林業研究機関（約50部）、国会図書館（20部）、都道府県立図書館（約100部）、市立図書館（政令市のみ）（40部）、林業関係団体（約360部）、林業系高校（約75部）、大学・短期大学等（約70部）等に配布。

（2）ホームページへの掲載

農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載し、9月にHTML版を掲載予定。7月までのアクセス数は約5万件（森林・林業白書トップページ約2万4,000件、令和6年度森林・林業白書ページ約2万6,000件）。

広告用コンテンツとして、白書紹介動画をトップページ等に掲載（約1か月間の閲覧数約31万回）。

また、白書説明動画を作成し、令和6年度森林・林業白書ページに掲載（約1か月間の再生回数約2,100回）。



※公表後7月までの件数

2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった者に対し出版許可を行い、市販本計4,000部を出版・配布。

- ・一般社団法人全国林業改良普及協会：4,000部

令和6年度森林・林業白書の広報・普及について（2／3）

3. 説明会の開催

6月から8月にかけて、林業関係者、大学等に対して、現時点で計34回、約2,000名に対して、森林・林業白書の概要を説明（林野庁企画課の担当者が対面又はWEB会議形式で実施）。説明会ではアンケート調査を実施。

（1）4白書合同説明会

オンラインにて、農・食・林・水4白書の合同説明会を開催。都道府県、市町村、林業関係者等を中心に、計3回、約720名が参加。

（2）大学等での説明会

全国の大学等において、主に講義の一環として、白書説明会を開催。農学部等の学生を中心に計23回、約930名が参加。現在、1校と調整。

北海道大学、岩手大学、秋田県立大学、山形大学、筑波大学、宇都宮大学、東京大学、東京農業大学、東京農工大学、東京環境工科専門学校、日本大学、新潟大学、信州大学、三重大学、京都大学、京都府立大学、近畿大学、岡山大学、高知大学、九州大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学 ※調整中：名古屋大学

（3）林野庁単独の説明会

平日昼間の説明会参加が難しい方を対象に平日夜及び週末（日曜日朝）に林野庁単独の白書説明会（オンライン）を2回開催。約200名が参加。

令和6年度森林・林業白書の広報・普及について（3／3）

（4）その他の説明会

以下の組織・団体等において白書説明会を6回開催。約150名が参加。

林政ジャーナリストの会、日本政策金融公庫、日本ウッドデザイン協会、森林共生フォーラム、日本製紙連合会、農林行政を考える会

4. 紹介記事の投稿

森林・林業関係誌等に、白書の紹介記事を投稿。

- ・ 「林野-RINYA- 6月号」（林野庁広報室）、
- ・ 「森林組合 7月号」（全国森林組合連合会）
- ・ 「森林技術 7月号」（日本森林技術協会）
- ・ 「山林 8月号」（大日本山林会）
- ・ 「森林と林業 8月号」（日本林業協会）
- ・ 「林業経済 8月号」（林業経済研究所）
- ・ 「林野庁 公式X（旧ツイッター）」（林野庁広報室）
- ・ 「林野庁 公式フェイスブック」（林野庁広報室）

5. その他の情報発信

農林水産省「消費者の部屋」において、森林・林業関連図書と併せて白書を紹介する展示を実施（8/25～8/29）。

MAFFチャンネル（Youtube）にて白書紹介動画Ver.2を公開（7/9～）。

MAFFチャンネル（Youtube）にて令和6年度白書の説明動画を公開（7/25～）。

農林水産省インスタグラムにて令和6年度白書の広告を公開（7/22～）。

令和6年度森林・林業白書に対する主な評価（1／2）

1. 全般に関するもの

- 白書の事例が多く、施策についてよく分かった。事例は一覧になっていて見やすかった。
- 年度末に発生した林野火災の情報など、最新の情報も取り上げられており良かった。
- 白書は多くの人の手に渡って、やっと世の中に出される公式な文章というだけあり、難しい表現や、言い回しが多いと感じた。
- キーワード集のようなものがあるとさらに理解が深まると感じた。

2. 特集に関するもの

- 生物多様性というテーマで特集が組まれた点について、世論がより、環境や森林に目が向きかつその保全に注目が集まっていることを感じた。
- 生物多様性について興味を持っているため、特集が組まれ、かなり深掘りされた内容を知ることができてよかった。将来の職業選択にもつながるような内容だった。
- 生物多様性に関して、どんな生物がどんな環境・空間に生息しているのか具体例があれば分かりやすいと感じた。
- 生物多様性に配慮した林業経営について今後の進展に期待したい。

令和6年度森林・林業白書に対する主な評価（2／2）

3. トピックスに関するもの

- 技能検定について興味を持ったので、試験内容などを深く調べてみようと思った。
- 木材由来の「改質リグニン」に注目が集まっていることを知り、大変興味深く感じた。従来のプラスチックの代替として、高耐熱・高強度・高流動性を備えたバイオマス素材が開発されていることは、環境負荷の軽減のみならず、産業界にとっても大きな価値を持つと感じた。

4. 通常章に関するもの

- 再造林が進んでいないという問題意識を読者にも持ってもらうために、白書に記載した方が良いのではないか。
- 給与は重要な要素であるため、就職活動者の多い10～20代の給与が全産業と比べてあまり差がないことをもっと前面に出していくべきだと感じた。
- 木育に興味があるので、木育への取組、効果、今後の展開等について詳しく記載してほしい。
- 低層非住宅建築物の木造率の年推移や各種分析・考察などをまとめてほしい。
- 企業のSHK制度の取組について取り上げてほしい。